

「ZAIDAN Report」第8号では、「東北大学陸前高田応援サークル『ぽかぽか』」様の活動をご紹介します。

「コミュニティ形成支援」「地域活動の振興」「震災の伝承」の3本柱による継続的な取り組みで、陸前高田市の住民に寄り添い、地域を活性化することを目的に、有志学生を中心に発足した「東北大学陸前高田応援サークル『ぽかぽか』」様の、当財団の2024年度助成を活用した「サロン活動」を始めとする、地域の復興に寄り添った活動をご紹介します。

「ぽかぽか」様についてご紹介

- 東北大学では、東日本大震災の発生直後に「東日本大震災学生ボランティア支援室」が設立され、その活動の一環として、岩手県陸前高田市に学生を派遣する「ボランティアツアー」が実施されてきました。
- 活動を通じて、瓦礫や災害廃棄物の撤去や、住宅の再建などのハード面の復興だけでなく、震災の記憶を後世につないでいくことや、若者を中心とした人口流出による地域コミュニティの衰退に向き合うことなどのソフト面の復興の必要性を強く感じました。
- そこで、継続的な支援によって陸前高田市の住民に寄り添い続け、地域を活性化することを目的として、有志学生を中心に、学生ボランティア／地域支援団体「東北大学陸前高田応援サークル『ぽかぽか』」(以降「ぽかぽか」とします)が発足しました。

【陸前高田市の七夕祭りに参加した際のメンバーの皆さん】



活動の「3本柱」

「ぽかぽか」では、岩手県陸前高田市において、「3つの柱」を目的として掲げ、活動しています。

①コミュニティ形成支援

- 陸前高田市では、震災による人口流出や少子高齢化の影響で地域の過疎化が進行するとともに、新型コロナウイルスの流行の影響から地域コミュニティが希薄になっています。
- そこで「ぽかぽか」は、ビンゴ大会やクリスマスリース作りなどのイベントを通して、陸前高田市内の公営住宅の住民と交流する「サロン活動」を行っています。
- この活動を通して、近隣住民同士の交流の場を設けて地域コミュニティの活性化を促進するとともに、学生と住民の方が交流する機会を設けることで、公営住宅の住民の方が孤立することを防いでいます。

2025年2月の
「サロン活動」より



【手を動かしながら会話が盛り上がる住民の皆さん】



【足湯でリラックス】

②地域活動の振興

- 陸前高田市では、人口流出と少子高齢化が進行しており、地域の衰退、伝統の風化が進み、これにより地域の振興が妨げられる可能性があります。
- そこで「ぽかぽか」は、地域の伝統行事に参加するとともに、子どもたちを対象とした「ワークショップ」を開催しています。
- これらの活動を通して、人口流出による伝統行事の担い手不足を補うとともに、普段関わらない子ども同士の交流、子どもと地域の人々との交流を増やし、地域への関心を高める狙いがあります。
- 加えて、メンバーが大学生であるということを活かし、子どもたちに大学生との交流の機会を提供することで、高校卒業後の進路選択の幅を広げ、将来について考えるきっかけを増やしたいと思い、日々の活動を行っています。



【「クリスマス子ども企画」での集合写真。】



【メンバーと住民の皆さんと一緒に「サロン活動」後の集合写真】

④ 震災の伝承

- 東日本大震災から十数年が経過し、震災当時の記憶の風化が進んでいます。そこで、「ぽかぽか」は、団体内部だけでなく東北大学生を対象とした「スタディツアー」や、東北大学内で震災の「写真展」を実施しました。
- これらの活動を通して、陸前高田市や、東日本大震災に関する知識や教訓についての理解を、私たち「ぽかぽか」自身が深めるとともに、団体外部へ向けて発信し、より多くの人に震災当時の様子について知ってもらい、防災への意識を高めてもらうことに貢献していきたいと思っています。
- また、SNSも活用し、これらの活動の様子を発信することで、様々な人に震災のことや陸前高田市のことを知ってもらえるように工夫を重ねて活動しています。

今回の助成応募の背景

- 今回、申請させていただいた背景には、「私たち大学生だからできることを生かす活動」と「東日本大震災からの年月の経過」があります。
- まず、「ぽかぽか」が行っているメインとなる活動の一つに、陸前高田市内の公営住宅の住民を対象にした「サロン活動」があります。具体的には、お茶を飲みながらの雑談、手芸、飲食、季節にちなんだイベントなどを通じて住民同士、住民と大学生の交流の場を設ける、といった活動を行っています。
- 大学生のボランティアとして、利害関係を持たない親しみやすさや、時間に融通の利きやすいフットワークの軽さを生かすことができ、「大学生だからこそできる」活動だと考えています。
- しかし、主に仙台市に住んでいる東北大学の学生によって構成される「ぽかぽか」にとって、300kmほど離れている陸前高田市で活動を継続的に行うことは、簡単ではないのですが、10年以上同じ地域に通い、積み上げてきた信頼関係やノウハウをこれからも受け継いでいくことで、より深く活動を展開していける、と考えているからこそ、この団体を継続させたい、させなくてはならないと感じています。
- そのような中、年々、東日本大震災に関連するボランティア活動への助成金が少なくなっていることから、交通費や宿泊費のための資金を調達することが困難になってきており、現在は、学生からの参加費や大学からの助成金で活動を行っていますが、深刻な資金不足である背景から、助成申込に至りました。

今回の助成による成果

- 「サロン活動」では、参加者同士の交流を促進することで、災害などの非常時や日常生活で困難を感じた際に「助け合える関係の構築」を目指しています。
- また、私たちが主催するイベントが外出のきっかけとなることで、公営住宅で暮らす方々の健康促進や孤独感の軽減につながるだけでなく、一人暮らしで日常的に外出する機会が少ない高齢者も多い中で、こうした場が生きがいにつながることも考えられます。
- 以上のような活動の成果は、はっきりと目に見える形では現れないものですが、着実に東日本大震災やコロナ禍で失われた地域コミュニティの再構築と強化につながっていると感じています。
- 実際に、昨年12月に行った「サロン活動」では、クリスマスリース作りを住民さん同士でお話しながら作成していたり、ビンゴ大会では「ぽかぽか」メンバーを含むその場にいる全員で盛り上がり、交流の増加を確実に感じました。
- 住民同士の交流が活性化されることで、地域の活気を取り戻し、より魅力ある地域となるお手伝いをこれからも続けていけたら、と思います。



【2024年12月の「サロン活動」では、大学生と参加者が一緒になってクリスマスリース作りで盛り上がりました！】

今後の抱負など...

- 当団体は、今後より多くの人に活動に参加してもらうため、また興味をもってもらうため、当団体の活動を詳しく知ってもらいたいと考えています。
- そのための手段として、これまで行ってきたインスタグラムなどのSNSに加えて、新規にブログを開設し活動先の地域や活動にかける思いなどを綴っていきたくと思っています。
- また、新型コロナ流行以降、「サロン活動」を通じて続いていた関係が途絶えてしまった地区も少なくないので、今後は、そのような地区との繋がりを取り戻し、以前よりも強い関係性を築いていきたくと思っています。